

さんま通信



厚生中央病院だより 第52号 2018年

冬



平成30年 新年のご挨拶

病院長 櫻井 道雄

新年あけましておめでとうございます。

2014年6月に施行された医療介護総合確保推進法と言う法律により、団塊の世代830万人が後期高齢者を迎える2025年を目途に、高齢者が病気を抱えながらも可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで送ることが出来る「地域包括ケアシステム」と言う概念を国が提唱し、それを現実化するために法律で街の構造改革が急ピッチで進んでいます。急性期病床から回復期病床への転換、医療と介護の連携、高齢者施設を含めた在宅療養の推進などです。厚生中央病院は地域包括ケアシステムを支える中心的役割を持った病院です。高齢者施設や在宅療養中の患者さんが急変した時に24時間体制で受け入れる病院であり、平成26年8月から在宅療養後方支援病院として約350名の在宅患者さんが登録されています。登録患者さんの約半数が入院しましたが、24時間一度も断ることなく診療を受け入れています。

高齢化社会に適応した急性期病院として、院内的には高齢化社会での医学的キーワード（認知症、嚥下性肺炎、転倒骨折、悪性腫瘍、緩和医療等）に対応出来るように組織改革を行い、院外的には医療と介護の連携セミナー等を開催し地域との連携強化を図っています。また、厚生中央病院はがん専門病院や高度急性期病院と地域との橋渡しの機能を持った病院として、地域に戻られたがん患者さん等を地域の先生方と連携しながら支援診療を行っています。

最近、少子高齢化の少子対策にも国は力を注ぎ始めています。厚生中央病院は多数の診療科を抱えた総合病院です。産婦人科医は現在11名を数え、昨年末から小児科医を2名に増員し安心安全なお産が出来るよう周産期医療の充実化も図っています。高齢者から小児まで地域の人々が安心して医療が受けられるよう様々な改革を行っています。地域中核病院として地域から頼られる病院を目指しています。今年も地域の皆様方のご意見を頂きながら病院を運営して行きたいと思っていますので、宜しくご指導の程お願い申し上げます。

目次 contents

平成30年 新年のご挨拶 1

厚生中央病院、健診センター増設と
レディースドック新設について 2~3

2018 地域健康フェスティバル..... 4



目黒で野駟けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

厚生中央病院、健診センター増設とレディースドック新設について

健康管理センター長

笹目 敦子

当院ではこれまで、年間に約6,700人の1日ドックと、約2,500人の2日（宿泊）ドックを行ってまいりました。健診の重要性が認識されていく中で、当院ドックの受診希望者も増加し、最近では予約の入りにくい状況となり、検者の皆様には大変なご不便をかけております。現状をふまえ、この度、病院横のシンセイ第一ビル2F（本館から10mほどの建物）に健診センターを増設することになりました。

Annex（別館）の名称で、2018年1月に運営開始となります。

最近の医療施設の流れとして、女性専用外来を設ける施設も多いことから、Annex（別館）の健診センターでは、女性のみ、男性のみと、曜日を決めて、健診のご案内することになりました。

本館ドックは、ご夫婦、ご家族で受診される方も多く、従来通り男女を分けることなく健診を行ってまいります。

Annex（別館）では、本館と同じ1日ドックの健診項目を行います。ただし、胃の検査に関しては、胃カメラ希望者が増加していることから、胃カメラ検査のみを行います。頸動脈エコー、心臓超音波検査、API、骨密度検査等のオプション検査は、本館に移動しての施行となります。

	月	火	水	木	金	土
男性1日ドック	●	●				●(第1,3)
女性1日ドック			●			
レディースドック*				●	●	●(第2,4)
レディースがん検診*			★(午後)	★(午後)		

*レディースドック：従来の1日ドックに婦人科検診+マンモグラフィー+乳腺エコー(超音波)をセットにした検査を行います。

*レディースがん検診：婦人科検診+マンモグラフィー+乳腺エコーのみの検診を行います。こちらは、婦人科検診のみ、乳がん検診(マンモグラフィー+乳腺エコー)のみの選択も可能です。



女性のがん検診について

女性は閉経を迎えると、婦人科検診から遠ざかる方も多くなりますが、閉経後でも子宮体がんや卵巣がん等の悪性疾患のリスクは引き続きあります。

また、子宮頸がんは20歳代から30歳代で急増しており、定期的な検診が必要とされます。子宮頸がん検診は5つのがん検診（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診）の中で唯一、20歳から受診対象となっていますが、我が国での20歳代の検診受診率はわずか22.2%です。子宮頸がんで1年間に12,813人が亡く

なっており(2015年)、一生のうちにおよそ74人に1人が、子宮頸がんと診断されています。

出典：人口動態統計2015年

(厚生労働省大臣官房統計情報部編)

また最近は、食生活の変化等に伴い、国内での乳がんの発症率が急激に増加しております。日本での乳がん検診の受診率は大変低く、40～69歳での受診率は34.2%です。乳がんは、5つのがん検診(胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん検診)の中で、がんが発見される割合が最も高い一方で、受診率は子宮頸がんに次いで低い状態です。乳がんで1年間に13,584人が亡くなっており(2015年)、一生のうちにおよそ12人に1人が乳がんと診断されています。

出典：人口動態統計2015年

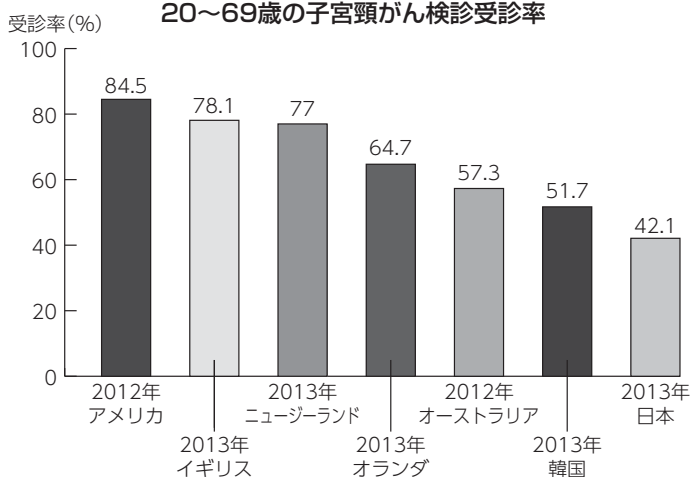
(厚生労働省大臣官房統計情報部編)

Annex(別館)の乳がん検診では、マンモグラフィと乳腺エコーの両方を行います。マンモグラフィ検査は、手で触れてもわからない、早期の乳がん診断に有効で、症状のない人が対象となる検診に大変適しています。国際基準となる検査であり、日本でも40歳以上の方に推奨されています。ただし、質の良い撮影が行なわれても、乳がんの約10～15%で診断精度が低くなるという課題があり、当院ではマンモグラフィと乳腺エコーの双方を検査項目としました。乳腺エコーのみの検診は、乳がんの死亡率低下に有効との評価が出ていないのが現状です。約7万6千人の40代女性を、マンモグラフィのみ受けたグループと、マンモグラフィ+乳腺エコーのグループに無作為に分けて比較する大規模臨床研究の結果、がんの発見率はエコー検査を加えたグループで1.5倍高かったという報告が出ております。

平成28年に実施された「国民生活基礎調査」によると、日本の検診受診率は、男性において、胃がん、肺がん、大腸がん検診の受診率は40～50%程度、女性においては、乳がん、子宮頸がん検診を含めた5つのがん検診の受診率は30～40%です。

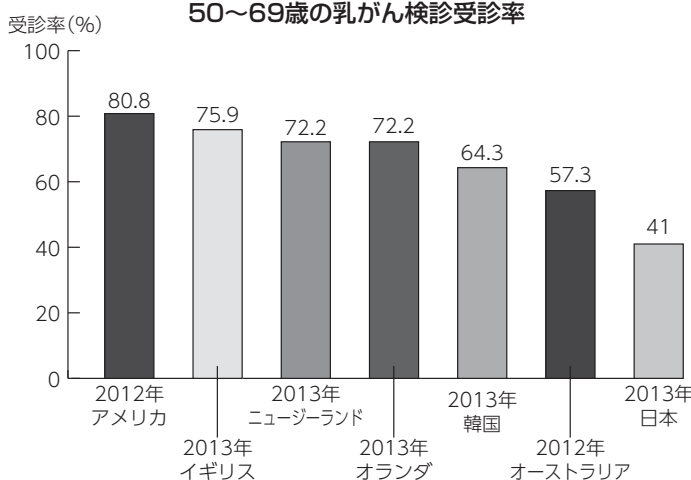
日本は医療機関へのアクセスが良いため、日常診療で“がん”と診断されることも多いですが、その影響を加味しても国際的に日本のがん検診受診率が低いことは一目瞭然です。定期的に健診を受けて、ご自身の身体と健康を見つめ直されてください。

20～69歳の子宮頸がん検診受診率



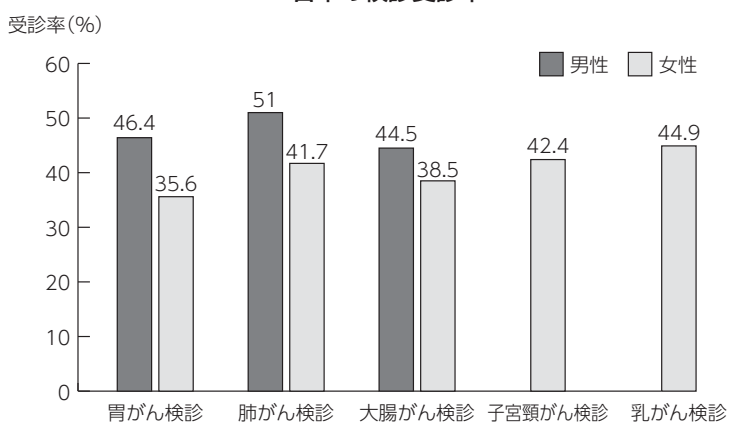
資料：OECD, OECD Health Data 2015, Nov 2015.

50～69歳の乳がん検診受診率



資料：OECD, OECD Health Data 2015, Nov 2015.

日本の検診受診率



資料：2016年 生活基礎調査(厚生労働省)より

入場
無料

2018

地域健康

フェスティバル

～この街で伸ばそう!! 健康寿命～

2/18 日 10:30～15:00

全国土木建築国民健康保険組合

場所：厚生中央病院 目黒区三田1-11-7

◆食べて健康

「どけんぼ健康レシピ大賞」授賞式
「恵比寿三越&おいしい健康&厚中コラボ弁当」
栄養補助食品などのサンプル多数

◆相談して健康

* 医師による健康相談
* お薬相談
* 歯の健康相談
* 栄養士による栄養相談
* 目黒区ブース
□坂道ウォーキング
□受動喫煙防止
□保健所ブース・・・など

◆測って健康

医療スタッフがあなたのお身体測定します!!
* 骨密度 * 血糖値
* 血管年齢 * 血圧
* 頸動脈エコー * 脈拍
* 酸素飽和度 * 肺年齢
* 認知症チェック
大人気!!整理券配布します

◆やって健康

* 手術室ツアー * * 今話題の「血管治療」体験 *
日頃入ることのできない手術室!!
～今日はあなたも外科医?!～
* なりきりキッズ/AED操作講習 *
今年は白衣やスクラブを着て人命救助にLet's try!
* 転倒予防体操 *
* 福祉用具体験 *
* 認知症カフェ「Dカフェさんま」 *
* 福祉車両体験 *



◆聴いて健康

* 健康講話 *
「膝(ひざ)関節症」について当院整形外科宮本医師が
分かりやすくお話しします

* ピアノコンサート *

藤田 真央 (ピアノ) Mao Fujita (Piano)
1998年東京都生まれ。3歳からピアノを始める。
2017年、東京音楽大学1年在学中に、
第27回クララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールで優勝。
併せて「青年批評家賞」「聴衆賞」「モダンイズム賞(新曲賞)」
の特別賞を受賞し、一躍世界の注目を浴びる。
その他、海外における国際コンクールにて授賞歴多数。
国際音楽祭に多数招待され、リサイタルを開催している。



©井村重人

お問い合わせ：全国土木建築国民健康保険組合 総合病院厚生中央病院 地域健康フェスティバル実行委員会 Tel :03-3713-2141(病院代表)
後援：目黒区 共催：目黒区医師会・目黒区歯科医師会・目黒区薬剤師会
協力：恵比寿三越店・おいしい健康・Dカフェ・やさしい手・(株)モンブラン・SUBARU・雪印メグミルク・ロッテ

総合病院 厚生中央病院

イベント内容は変更となる場合がございます。詳しくは厚生中央病院地域健康フェスティバル実行委員会(03-3713-2141)にお問い合わせ下さい。